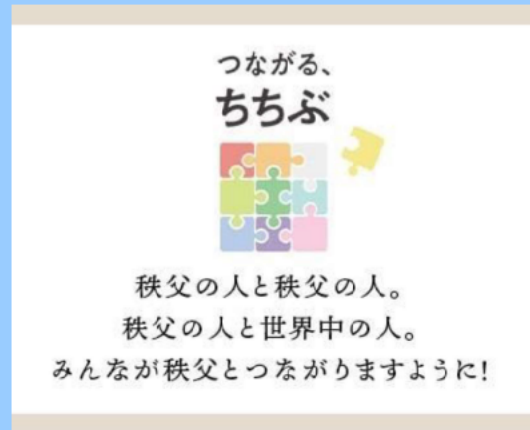


GISをもっと身近にするために CSS規格化とLGWAN-ASP配信



秩父市地域整備部都市計画課

i-都市交流会議2020

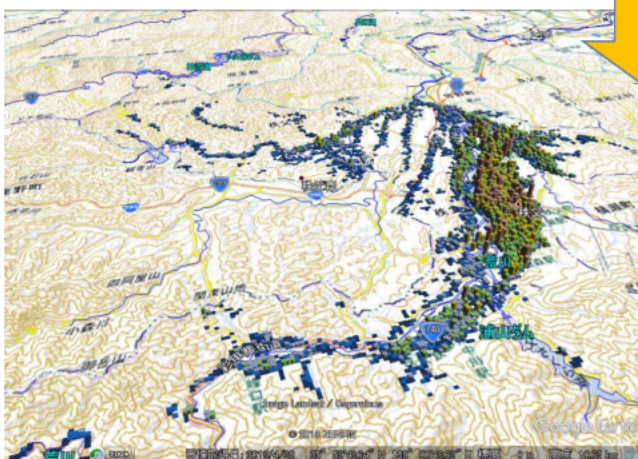
1

1.可視化はみんなにわかりやすい

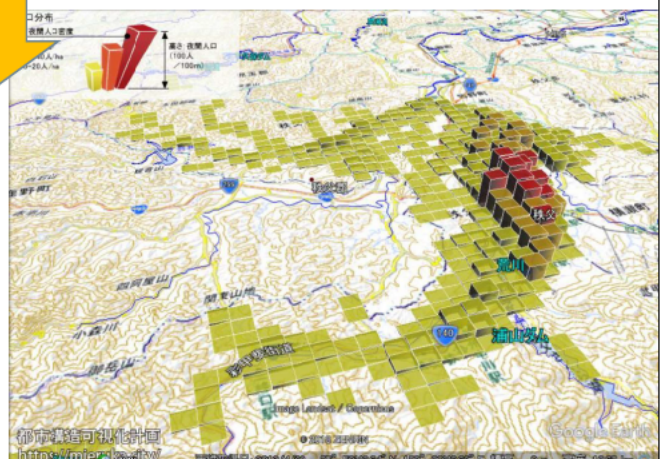
- ①見る側（住民）にわかる・伝わる
- ②使う側（職員）にわかる・伝わる・管理できる

昨年可視化活用のメリットを実感

都市マス・立適計画策定委託発注にk m l形式での納品を仕様化



市（委託）作成-夜間人口
（2015）100mメッシュ



都市構造可視化計画-夜間人口
（2010）500mメッシュ

補注：都市構造可視化計画、地理院地図、Google Earthを使用

i-都市交流会議2020

2

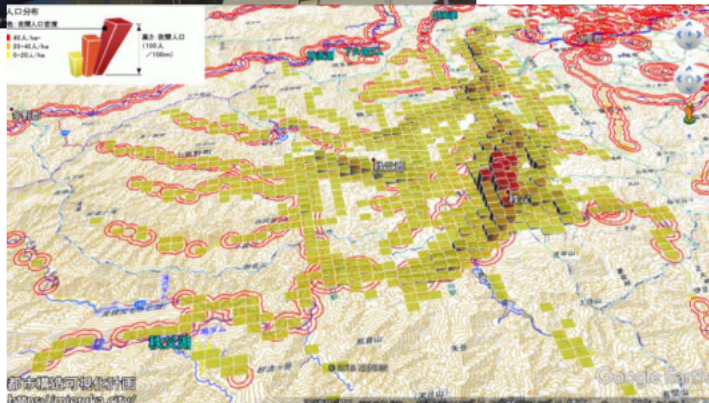
2.見る側（住民）にわかる・伝わる

住民説明会・関係者への説明



都市マス・立適策定にかかる住民懇談会で（令和元年10月市内11か所）でRESASや可視化の将来人口推計、直近5年間の人口増減メッシュ、公共交通利用圏などを用い現状説明

このほか市内検討ワーキンググループや、県を含めたパーソントリップ補完調査における調査内容の検討においても活用。



都市構造可視化計画では、周辺自治体のデータも用意されているため、広域課題の検討にも活用

秩父地域人口×公共交通利用圏

補注：都市構造可視化計画、地理院地図、Google Earthを使用

3.今のGISは非常にわかりにくい

都市計画情報のオープン化へ

秩父市では都市計画マスタープランと立地適正化計画を策定するにあたり、各機関からデータを収集したが、同じ法規制情報であっても、調査委託の受託事業者が違えば属性情報データレイアウトが異なってしまっていて成果物のデータ統合に非常に手間がかかり、国土数値情報においても情報が古いなど誤りがあるため手順が複雑化、本計画委託コンサルにおいてもミスが生じて手戻りが発生。

また、納品成果物も他課GISにインストールすると設定をほぼ一からやり直す必要が生じるほか、そもそも“shpファイル”“DM”“座標系”などなかなかわかりにくく、自分の後任の職員にすぐに理解してもらえる気がしない。そうするとせっかく大金をかけて整備したデータが「この時だけ」になって活用されなくなってしまう。

できれば成果を公開・オープン化し、多様な主体に分析を行ってもらえる環境を整えたいが・・・

3 e-Tax仕様一覧	ダウンロード	更新日
1. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日
2. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日
3. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日
4. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日
5. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日
6. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日
7. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日
8. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日
9. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日
10. 都市計画マスタープラン（一部ダウンロード）	CAD形式、約10MB	令和元年12月10日

ちなみにxmlファイルで国・地方公共団体・申告者間でデータをやり取りするe-taxや国税連携は仕様が厳密に定義されている

4. GMLは都市計画情報オープン化の役に立つ

「i-UR1.0」は都市計画GIS標準化の第1歩

「i-UR1.0」において“都市計画基礎情報”以外の法規制情報も順次標準化されれば、簡単に正しい情報が手に入られる世界が近づいてくる

&

さらにcssも標準化・普及に努めてほしい

「i-UR1.0」に基づくgml形式での納品を仕様に盛り込むようにするなど

例) 他部署のシステム更新で用途地域のシェープファイルを渡し、色をマンセル値で指定したところ、RGBで依頼され、スクリーンショットで撮った画面をペイントで開いてスポイトで一つ一つ値を確認するなどの作業を行った（すくなくともKMLならこんなことは起こらない）

5・LGWAN環境下での利用可能性

マイナンバー導入に伴うセキュリティ強化

市区町村はマイナンバー導入に伴うセキュリティ強化で日ごろ業務で使用する端末はインターネット系から遮断（仮想環境での利用が中心）



都市構造可視化計画はほとんどの市区町村で利用できていない。
（秩父市は都市計画課で専用端末を1台用意。仮想環境での利用はサーバーに負担がかかるため、当市の情報担当はやりたがらない。
昨年の報告を見る限り、いくつかの団体ではやっているそうですが…）

Google earth で地理院タイルを表示できたように、openstreetmapや地理院のオルソ画像も表示できた。3D表示できないというのは残念だが、それならこれらをダウンロードして下図にすればインターネット環境がなくてもGoogleearthは利用できるのではないか？

…まだ試していませんが…

6. LGWAN—ASPでの配信

地理院タイルをLGWAN—ASPで配信という選択肢

国土地理院や都市構造可視化計画等にご尽力いただき、GISデータの活用可能性が広がったのに、市町村にその可能性が閉ざされてしまうのは大変残念です。

インターネットで“国土地理院”“LGWAN”で検索すると、国土地理院にLGWANで地理院タイルを配信してほしいという要望が自治体から届いており、地理院で検討もされているようです。

地理院タイルをLGWANで配信するか、地理院タイルそのものをダウンロードして利用するのか、どういう形になるのかわかりませんが、ぜひとも可視化計画におけるデータ活用の可能性も含め、googleearthにこだわることなく、ご検討いただければと思います。

字ばかりですみません

埼玉県秩父市

